

お一人おひとりの気持ちに寄り添った

# 個別ケア

## グループホームこまば 木もれ陽

平成29年11月発行 [第5号]

### 相良ホーム長の ご利用者ファースト

#### 「きめ細やかな個別ケアの実践」

グループホームこまばではご利用者お一人おひとりの気持ちに寄り添った個別ケアを実践しています。職員全員が気づいたことをすぐに記入できるようにしてあり、それをもとに居室担当者がご利用者お一人おひとりの「嬉しいこと」「やりたいこと」「不安・苦痛」「介護への要望」等をアセスメントして、毎月の会議で個別ケアを提案します。今回はいくつか事例をご紹介します。



#### 事例1

#### 「ご家族とともに寄り添う」

亡くなってしまった旦那様を生きていると思っているご利用者がいらっしゃいます。夕方から夜にかけてわからなくなり、ウロウロしたり、家族に電話をかけて欲しいと頼んだりされます。ホームに来てからは、騙しだましの対応ではなく、亡くなったことをお伝えしたり、家族に電話をしたりして、本人に確認してもらうようにしています。記憶障害があり、忘れてしまったりするのは仕方ありません。しかし、騙しだましの対応は最終的には嘘の上塗りになってしまうと考えました。一時的な施設なら騙しだましも仕方ないと思いますが、帰れるご自宅はもうないし、ここホームが生活の場所であると認識して欲しい…そんな思いを込めて、嘘は極力つかないことにしました。ご家族と相談し、旦那様の8月の命日にお墓参りに行っていただきました。行った後すぐは、家族へ電話したいという希望が増えました。ご家族に電話をするのは気が引けます。しかし、ご本人にとって、わからないことを確認したいのは当たり前のことです。家族にもご理解を求めました。さらに、ご家族と話し合いを持ち、仏壇を持ってきたらどうかと提案しました。仏壇やお墓は人類の叡智だと私は考えています。残されたものが死を乗り越える為に考え出したものであると思います。ご家族がお位牌を持ってきて下さり、居室に置きました。それからというもの、旦那様のお位牌の前の水を毎日変えています。外に買い物に行くと、「主人が好きだったから」とお菓子を買ってお位牌にお供えするようになりました。わからなくなってご家族に電話することもほぼなくなりました。認知症対応ではなく、「人」として対応できた事が良かったのではないかと思います。



#### 「裁縫はお手のもの」

#### 事例2

今までやっていたことは自然と体が動きます。ホームで使うクッションを縫ってくださっています。得意なことで人の為になれる、そんな充実感が生きる喜びにつながります。



#### 「書道クラブに参加」

#### 事例3

ご本人の生活歴から、書道の経験があることに着目して、法人内養護老人ホーム白寿荘の書道クラブに参加して頂くことにしました。今でもお変わりなく素晴らしい達筆です！



### 職員紹介

## こまばのこの人



#### 鈴木みゆき

入社して10年。特養で数年勤務してからグループホームに異動しました。主婦であることを活かし、ご利用者さんが家事をいつまでもし続けられる事を意識してサポートしています。最近ちょっとした時間出来る楽しいレクを考え、生活に遊びを取り入れてご利用者と一緒に楽しんでいます。



#### 西村のり子

グループホームこまばで働いて7年程になります。以前はデイで働いていて、次は生活の場でご利用者に関わりたと思ってこまばに来ました。調理等の家事と一緒にやって楽しい生活を送ってほしいです。笑顔のあふれるホームにしたいです。



### 認知症カフェ & 目黒区認知症サポーター養成講座 in グループホームこまば

#### お知らせ

12月9日(土)13:00~15:00  
駒場苑に来てくださっているボランティアさんを対象に開催します。この機会に認知症のことを学んで、語って、感じて頂けたらと思います。ご希望の方は駒場苑にお電話下さい。皆様のご参加をお待ちしております。  
申込先 TEL 03-3485-9823  
ボランティアコーディネーター 田中  
または事務 橘 まで